

四日市市の子どもたちの 学力・学習状況や生活状況は？

四日市市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査について

文部科学省は、小学校6年生と中学校3年生を対象として子どもたちの学力と学習状況を調査しています。

今年度は4月18日（火）に実施され、その結果は、すでに9月に個人票（※1）や学校だより等でお知らせしています。

調査	調査内容
学力調査	国語A B、算数A B・数学A B (Aは主として「知識」に関する問題 Bは主として「活用」に関する問題)
学習状況調査 「児童生徒質問紙調査」	子どもたちの生活や学習などの意識を調べるもの



（※1）【個人票のイメージ】

2 四日市市の子どもたちの学力と質問紙調査から

四日市市の調査結果は、小学校では、課題であった国語の結果が改善され、特に、国語Bでは、昨年度に引き続き、全校平均を上回りました。一方、算数A Bは今回全国平均を下回っていますが、ほぼ同等の結果でした。

中学校では、国語A、数学A Bにおいて全国平均正答率を上回りました。特に数学の成果は、数学Aで全国平均を3ポイント以上上回るなど、本市の強みとなっています。国語Bにおいても、全国平均とほぼ同等の結果となりました。

小学校		国語A	国語B	算数A	算数B
	本市	75	59	78	45
	三重県	74	57	77	45
	全国（公立）	74.8	57.5	78.6	45.9
中学校		国語A	国語B	数学A	数学B
	本市	78	72	68	49
	三重県	77	71	65	47
	全国（公立）	77.4	72.2	64.6	48.1

※全国の平均正答率は、小数値で示されていますが、平成29年度から県及び市の結果については整数値で提供されることになりました。

これからの子どもたちには、学んだ知識・技能を実社会や実生活の中で活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究していくことが求められています。

本市では、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、子どもたちが身に付けた知識・技能を基に情報を収集したり、他者と協働的に課題を解決したりできることを目指し、子どもたちが「わかった」「できた」と実感できる授業を展開しています。



四日市市の子どもたちは？

～学力・学習状況調査から～

3 ここがすてき！ここが課題！四日市の子

全国学力・学習状況調査のデータ結果から、小中学校とも全国平均を上回ったところが多く見られました。これは、四日市市の子どもたちの強みとなっています。しかし一方、課題も見えてきました。

ここがすてき！

「OO」という子が全国より多い！

＜学校生活など＞

- 学校に行くのが楽しい
- 学校で、好きな授業がある
- 難しいことでも失敗を恐れず挑戦する
- 友達の前で自分の意見や考えを発表することが得意である
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる

＜自尊感情・規範意識＞

- 自分には、よいところがあると思う
- 人の役に立つ人間になりたい
- 人が困っているときは進んで助ける

＜地域との関わり＞

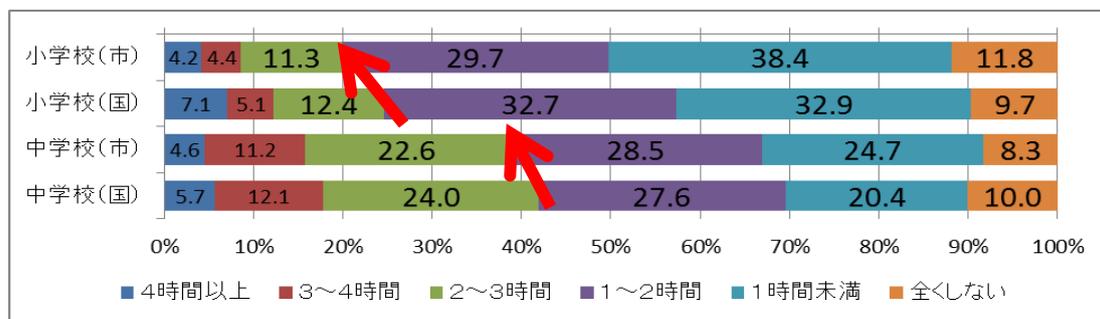
- 今住んでいる地域の行事に参加している

ここが課題！

土・日の勉強時間がやや全国より少ない！

Q：土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

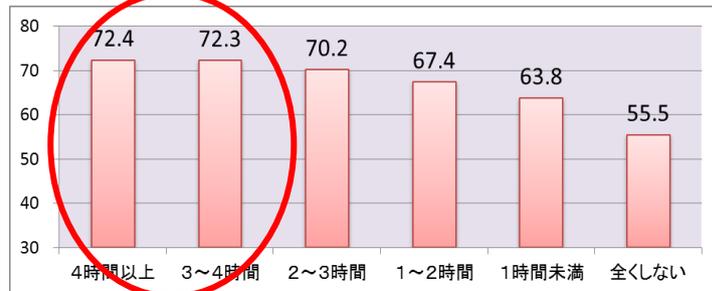
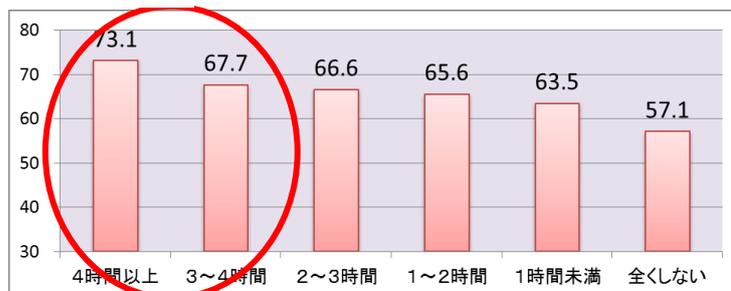
(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



＜小学校＞

下のグラフは、土日の勉強時間の長さとして2教科の平均正答率との関連を示しています。

＜中学校＞



- 小・中学校とも1日当たりの勉強時間が長いと、平均正答率が高い傾向がみられます。
- 「2時間以上勉強している」と回答した割合は、全国と比べて低くなっています。

四日市市の子どもたちは？ ～学力・学習状況調査から～

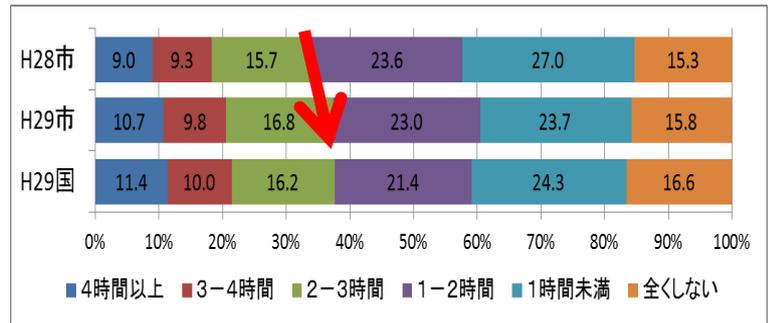
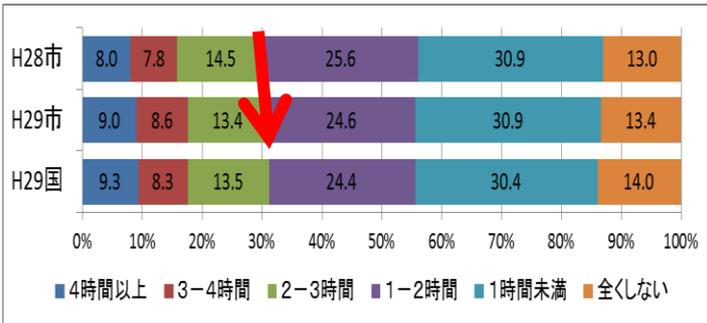
ここが課題！ ▶▶▶ 携帯電話・スマートフォンの長時間使用が増えてきている！

Q：普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか？

<小学校>

テレビゲームの時間が長いほど、平均正答率が低下する傾向があります。

<中学校>



下のグラフは、テレビゲームをする時間の長さと2教科の平均正答率との関連を示しています。



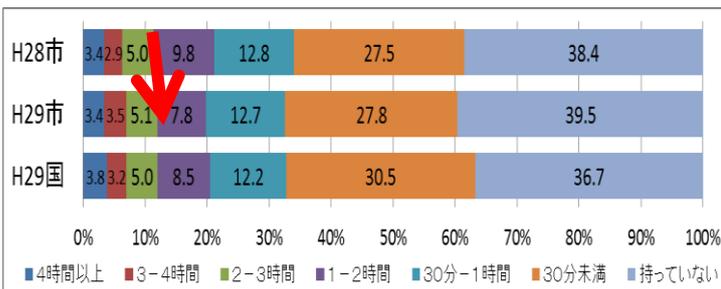
Q：普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか？（ゲームは除く）



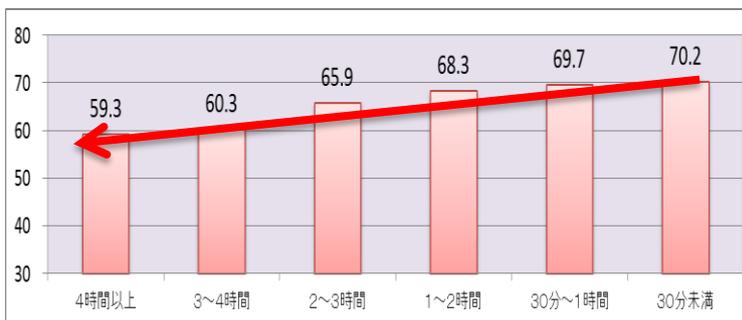
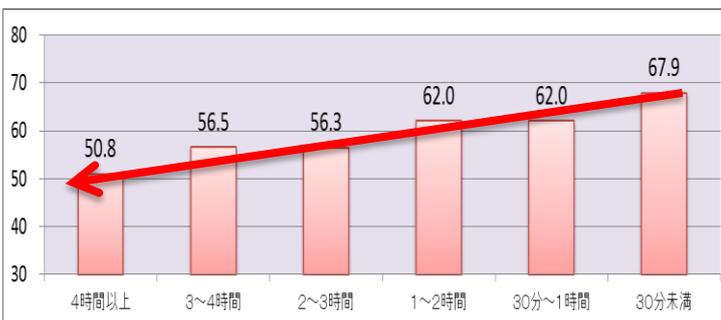
<小学校>

携帯電話等の使用時間が長いほど、平均正答率が低下する傾向があります。

<中学校>



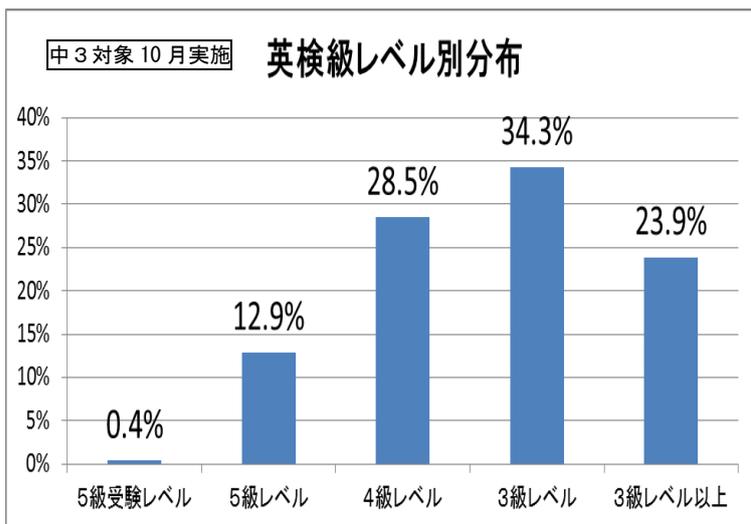
下のグラフは、携帯電話等を使用する時間の長さと2教科の平均正答率との関連を示しています。



4 今後の全国学力・学習状況調査について

来年度は、理科が（現小学校5年生及び中学校2年生が対象）、平成31年度には中学校で初めて英語の調査（現中学校1年生が対象）が実施されます。これらは3年に1回実施されるものです。

本市では、国が掲げる「中学校卒業時に、英検3級以上相当を習得できる英語力」を目指し、今年度から、県内に先駆けて英検I B A（日本英語検定協会）を中学校3年生に導入しました。日頃の英語学習の成果の確認や目標設定など、英語学習の動機付けを図ることをねらいとしています。



この検査は、英検の各級を公式に判定するものではありません。あくまでも、個人の「読む」「聞く」の2技能について各級相当の英語力を判定するものです。

左のグラフで、3級レベル及び3級レベル以上が50%を超えていることから、日頃の子どもの学習成果が結果に表れていると言えます。

今後の小学校での英語の教科化やこれから英語の外部検定試験が様々な場面で活用されることも踏まえ、子どもたちが英語学習に目標をもてるよう、小中学校が連携して学習を進めます。

5 保護者の皆様へ

- 【取り組み1】 全国学力・学習状況調査問題の活用
- 【取り組み2】 全国学力・学習状況調査の趣旨等を踏まえた授業改善
- 【取り組み3】 学習習慣の確立と学力補充の充実
- 【取り組み4】 継続的な学びへの取り組み

【学校の取り組みについて】



本市では、全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて、平成25年度から各学校において、学力向上のため、上記の4つの取り組みに力を入れています。特に、取り組み1と4は、かなり定着が図られてきましたので、今後は、取り組み2と3に注力していきます。

学校では、学習習慣の確立に向け、落ち着いて学習できる環境を整え、よりわかりやすい授業を目指し、授業改善等に努めていきます。

【保護者の皆様をお願いしたいこと】

子どもたちの学力向上や健やかな成長には、日頃的生活習慣が深く関係します。代表的な例として、「テレビゲームや携帯電話等の利用時間と学力の関係」をご紹介しましたが、スマートフォンの使い方等について家庭内でルールを決めるなど適切な使用について話し合いをお願いします。

また、家庭学習では、宿題に取り組むだけでなく、その日に学習したことを反復練習したり、予習をしたりして、学力の定着を図るようにご指導をお願いします。

今後とも、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの「確かな学力」を培い、「健やかな成長」を支えてまいりますので、ご理解・ご協力をよろしくお願いします。

